副専攻履修のてびき

【２０２５年度 改訂版】

福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

目　　次

副専攻制度について　1

副専攻コースについて　1

福山大学副専攻制度の概要　3

学際的副専攻　瀬戸内の里山・里海学コース　4

学術的副専攻　経済学コース　8

文学・歴史コース　12

心理学コース　15

メディア・映像学コース　18

機械システム工学コース　21

デジタルサステナビリティコース　24

生物科学コース　27

海洋生物学コース　30

薬学コース　33

副専攻履修申請から修了までの手続きの流れ　36

各種様式

（様式第２号）副専攻履修申請書　38

（様式第２号の裏面）既修得の副専攻科目と単位数　39

（様式第３号）副専攻コース変更届　40

（様式第４号）副専攻履修辞退届　41

（様式第５号）副専攻修了証書　42

（様式第６号）副専攻履修証明書　43

副 専 攻 制 度 に つ い て

副専攻は，皆さんが所属する学部・学科で卒業を目指して学ぶ主専攻とは別に，一人ひとりが興味や関心をもつ分野について学ぶことができる制度です。福山大学では，多角的な視点からものごとを捉え，判断できる人材を育成するために，**「学際的副専攻」１コース**と**「学術的副専攻」９コース**を用意しています。

「学際的副専攻」は，本学のブランドである「瀬戸内の里山・里海学」をコース名としており，共通教育科目の教養教育科目Ｆ群（地域学）科目と様々な学部の専門教育科目から構成されています。このコースは，本学が位置する瀬戸内地域，あるいは備後地域の経済，歴史文化，並びにそこで持続的に暮らしていくために必要となる自然との共生について学ぶことができるコースです。このコースを選択・履修することにより，備後の里山・里海に根ざす未来のまち・暮らしのあり方について，様々な視点から考えていくことができるようになります。

「学術的副専攻」は，総合大学である本学で学ぶメリットを活かし，同じ学部，あるいは他の学部で取り扱っている，皆さんの主専攻とは異なる分野を体系的に学修することができるコースです。これらのコースを選択・履修することにより，主専攻の視点だけに留まらない複眼的な視点をもつことができるようになります。

副専攻は，２年次以降の履修登録期間に，その時点までの累計ＧＰＡ値が３．０以上の学生本人が，所定の手続きを経て申請を行うことによって履修できるようになります。用意されているコースから希望するコースの履修を申請し，そのコースの配当科目を履修して，修了必要単位数を修得すれば，卒業時に**「副専攻修了証」**が授与されます。

近年，企業等の採用活動において，積極性や柔軟性に加えて，広い視野をもつ人材を求める傾向が強くなっています。副専攻履修者には，在学中に**「副専攻履修証明書」**を発行することもできますので，４年次に就職活動を行う際に「主専攻に加えて副専攻コースを履修することで積極的に学びを発展させ，広い視野をもつように努めてきた」ことをアピールできます。

以下に，副専攻コースについて説明します。

副 専 攻 コ ー ス に つ い て

１　現在開講している副専攻コースは下表のとおりです。

副専攻の種別	副専攻コースの名称	開設学部
学際的副専攻	瀬戸内の里山・里海学コース	全学部
学術的副専攻	経済学コース	経済学部
	文学・歴史コース	人間文化学部
	心理学コース	
	メディア・映像学コース	
	機械システム工学コース	工学部
	デジタルサステナビリティコース	
	生物科学コース	生命工学部
	海洋生物学コース	
	薬学コース	薬学部

２　副専攻コースの履修方法等については，福山大学授業科目履修細則の規定を準用します。

３　副専攻コースの履修申請ができる学生は，学部に在学する者で，申請を行う時点までの累計ＧＰＡ値が３．０以上の者に限ります。

４　所属する学部学科によって，履修できないコースがあります。

５　履修申請できる副専攻コースは１つのみです。

６　副専攻コースによっては，履修者数の上限（定員）を設けている場合があります。

７　副専攻コースを履修しようとする場合には，担任または所属学科の教務委員とよく相談したうえで**「副専攻履修申請書」**（３８～３９ページ）に必要事項を記入し，担任，教務委員，学科長，並びに学部長の承認印を受けたのちに，２年次前期以降の履修登録期間中（後期の場合は履修登録・変更期間中）に教務課窓口に提出してください（３６ページを参照）。

８　**「副専攻履修申請書」**について，前項の履修申請を行う年度には，**表（おもて）面**にその年度に履修する授業科目のみを記入してください。また，履修を継続する限り，毎年度始めにその年度に履修する授業科目を記入した「副専攻履修申請書」を提出してもらう必要があることに注意してください（３６ページを参照）。

９　履修申請時に，履修を希望するコースの授業科目配当表に記載されている科目の単位を既に修得している場合には，**「副専攻履修申請書」の裏面**に必要事項を記入すれば，それらの科目の単位がそのコースの修了要件単位に算入されます。

１０ 副専攻修了の必要単位数は２０単位以上とします。その他の修了要件は，各コースの**「副専攻コース説明書」**（４～３５ページを参照）に記載しています。

１１ 履修した副専攻コースの修了要件を満たし，所属の学部教授会において修了が認定された学生に対して，卒業時に**「副専攻修了証書」**（４２ページを参照）を授与します。

１２ 履修する副専攻コースの変更を希望する場合には，担任とよく相談したうえで，**「副専攻コース変更届」**（４０ページを参照）を履修登録期間中に教務課窓口に提出してください。

１３ 副専攻コースの履修を継続する意思がなくなった場合には，担任と相談したうえで，速やかに**「副専攻履修辞退届」**（４１ページを参照）を教務課窓口に提出してください。

１４ 副専攻コース履修者には，３年次や４年次に**「副専攻履修証明書」**（４３ページを参照）を発行することができます。ただし，発行時までに，履修している副専攻コースの授業科目から１２単位以上を修得済みであることが条件になります。

１５ 各副専攻コースの詳細については，４ページ以降の**「副専攻コース説明書」**を参照してください。

福 山 大 学 副 専 攻 制 度 の 概 要

1　履修申請できる者

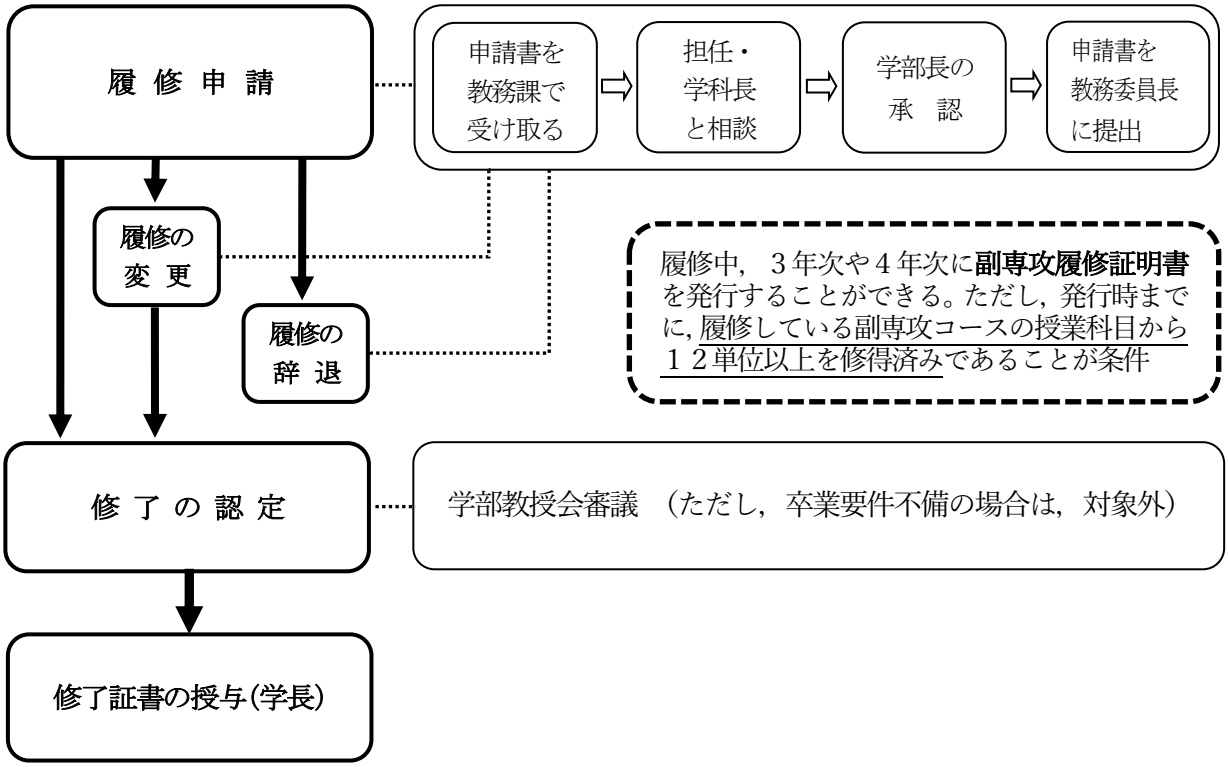
履修申請を行う時点までの累計ＧＰＡ値が３．０以上の者

2　履修申請時期（副専攻コース変更を含む）

２年次前期以降で，履修登録期間中とする。 （ 前期：履修登録期間最終日まで ／ 後期：履修登録・変更期間最終日まで ）

3　副専攻コースの決定

開設学部	副専攻コース	履修方法	修了必要単位数
全学部	瀬戸内の里山・里海学コース	各**副専攻コース説明書**に記載 (注) 福山大学授業科目履修細則に準じる。ただし，細則第４条(除籍)は適用しない。	１　２０単位以上 ２　その他の修了要件については，各**副専攻コース説明書**に記載 (注) ①　副専攻履修者にあっても，自由聴講制度における履修単位の取扱についての内規が適用できる。 ②　既修得科目の単位の読み替えの可否は，各**副専攻コース説明書**に記載
経済学部	経済学コース		
人間文化学部	文学・歴史コース 心理学コース メディア・映像学コース		
工学部	機械システム工学コース デジタルサステナビリティコース		
生命工学部	生物科学コース 海洋生物学コース		
薬学部	薬学コース		



様式第１号

令和 ７年 ４月 １日現在

副 専 攻 コ ー ス 説 明 書

開設学部名（全学部）

副専攻の種別とコースの名称	学際的副専攻　瀬戸内の里山・里海学コース

１ 副専攻コースの紹介と概要

学際的副専攻コースである本コースは，本学のブランドである「瀬戸内の里山・里海学」をコース名としており，共通教育科目の教養教育科目Ｆ群（地域学）科目と４学部の専門教育科目から構成する学部横断型，文理融合型のコースです。このコースでは，本学が位置する備後地域あるいは瀬戸内地域の経済，歴史文化，並びにそこで持続的に暮らしていくために必要となる自然との共生について幅広く学びます。

２ 副専攻コースの開始時期と副専攻コース選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）

本コースの履修申請は，２年次前期以降の履修登録期間に行うことができます。ただし，下の８の欄に記載しているように，履修希望者の受入上限人数を設定していますので，皆さんの希望にそえない可能性もあります。詳しくは８の欄を見てください。

本コースの履修に関して，既修得要件は特にありません。

３ 副専攻コースの履修について

（１） 本コースの到達目標

到達目標は，本コースの授業科目の履修を通じて修得した備後地域あるいは瀬戸内地域の経済，歴史文化，並びにそこで持続的に暮らしていくために必要となる自然との共生に関する幅広い知識に基づいて，里山・里海に根ざす未来のまち・暮らしのあり方について多角的な視点から考えることができるようになることです。

（２） 本コースを履修する上での注意点

１　本コースは，全学部・学科所属の学生が履修できます。ただし，履修申請を行う時点までの累計ＧＰＡ値が３．０以上であることが条件となります。

２　演習系科目については，キャリア教育科目の２科目を除いて履修登録時に抽選あるいは選抜により人数制限を行う場合があります。この人数制限にあたっては，教養教育科目Ｆ群科目については本副専攻コースの履修登録を行っている者を優先します。また，学部・学科の専門教育科目の場合には，当該科目を卒業要件科目とする学部・学科生を最優先とし，次に本副専攻コースの履修登録を行っている者を優先します。

３　本コースの授業科目のうち，所属学科の専門教育科目（所属学部の共通専門科目を含む）は，下の６欄に記載している（２）修了要件の制限に関わらず，単位を修得した場合には，所属学科の卒業要件に関わる専門教育科目の単位としては認定されます。

４　本コースの授業科目のうち，他学部あるいは他学科の専門教育科目については，自由聴講制により５科目１０単位までは所属学科の卒業要件に関わる専門教育科目（選択科目）の単位として認定できます。

５　所属学科の授業時間割との関係で，登録した副専攻コースの授業科目の履修が制限される場合があります。

４ 教育内容

本コースの授業科目は，「備後圏域経済・文化学系」「瀬戸内自然共生学系」並びにそれらの両方の要素を含む「境界領域」の各科目群から構成されています。講義科目については，全体で８科目１６単位以上，かつ２つの系からそれぞれ２科目４単位以上の単位を修得しなければならないように修了要件を定めているため，備後地域あるいは瀬戸内地域に関する文系に分類される知識と理系に分類される知識の両方を幅広く修得することができます。

さらに，演習系科目を２科目以上履修して４単位以上を修得しなければならないため，修得済みのあるいは修得中の知識を駆使して地域の課題の解決に取り組むことなどで，協働力，コミュニケーション力，応用力など，実社会で役立つ様々な資質を伸ばすことができます。

５ 授業科目及び授業内容

本コースの授業科目については別添の授業科目配当表を参照してください。
各科目の内容については，各年度に公開される当該科目のシラバスを参照してください。

６ 評 価

（１） 試験・成績評価

講義科目では原則として定期試験を行いますが，毎回実施する小テストの点数等から総合的に成績評価を行う科目もあります。各科目の成績評価の方法は当該科目のシラバスに記載しています。

（２） 修了要件

次の要件１と２を満たした者に，卒業時に副専攻（瀬戸内の里山・里海学コース）の修了証書を授与します。ただし，所属学科の専門教育科目（所属学部の共通専門教育科目を含む）は，合計２科目４単位までを，要件１と２の副専攻修了要件科目として認定できます。

１　本コースの講義科目から１６単位以上を修得していること。ただし，「備考(学系)」欄に「備後圏域経済・文化学系」と表記している科目，及び「瀬戸内自然共生学系」と表記している科目からそれぞれ４単位以上を修得していること。
２　本コースの演習系科目から４単位以上を修得していること。

また，本コース修了者のうち，「備考(学系)」欄に「備後圏域経済・文化学系」と表記している科目の中から演習系科目２単位以上を含む１４単位以上を修得した者に「備後圏域経済・文化学マイスター」の称号を，また「瀬戸内自然共生学系」と表記している科目の中から同じ条件の単位数を修得した者に「瀬戸自然共生学マイスター」の称号をそれぞれ授与します。

７ 副専攻コースの責任体制

本コースの修了認定は，各履修者の所属学部の学部教授会が行います。
本コースに関わる事務は，教務課と関係学部事務室が協力して行います。

８ 副専攻コース履修希望者の受入上限数

各入学年次生について２５名を上限とします。
２年次の年度初めの履修登録期間における履修希望者が上記の定員を超えた場合には，前年度までの累計ＧＰＡ値が高い者を優先します。なお，定員に空きが生じている場合には，２年次後期以降の履修登録期間にも履修者の募集を行います。

９ 副専攻コースの既修得単位等の認定単位数等

履修申請時に別添の本コースの授業科目配当表に記載されている科目の単位を既に修得している場合，副専攻履修申請書（様式第２号）の裏面の表に必要事項を記入すれば，それらの科目の単位は本コースの修了要件単位に算入されます。
また，令和６年度以前に入学した学生については，共通教育科目　教養教育科目Ａ群「食と人間」Ｅ群「セルフメディケーション」Ｅ群「食と健康」の単位は，それぞれ本副専攻コースの科目「地域資源から学ぶ食文化と健康」「地域に学ぶセルフメディケーション」「地域の食を学ぶ演習」の単位と読み替えることが可能です。また，生命工学部 各学科共通専門科目「洋上里海総合演習」「食農フィールド科学演習」「瀬戸内の農水産業を学ぶ総合演習」の単位は，それぞれ本副専攻コースの科目「瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習」「命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習」「瀬戸内海の養殖水産物を学ぶ総合演習」の単位と読み替えることが可能です。履修申請時にそれらの科目の単位を既修得である場合には，副専攻履修申請書（様式第２号）の裏面の表に記入してください。ただしその場合にも，これらの科目は，所属学科の卒業認定にあたっては読み替えを行わない本来の群・名称の科目として取り扱われます。

学際的副専攻（瀬戸内の里山・里海学コース）授業科目配当表

講義科目

科目区分	講義コード 授業科目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備考 （学系）
				前	後	前	後	前	後	前	後	
共通教育科目 教養教育科目（F群）	G03RST1100 備後地域学		2	●								境界領域
	G03RST1450 瀬戸内の里山・里海学		2		●							
共通教育科目 教養教育科目（F群）	G03RST1500 国際化と地域創生		2	●								備後圏域経済・文化学系
人間文化学部 人間文化学科　専門教育科目	HA6ETH2100 日本語学概論２		2			●						
経済学部　共通 専門教育科目	EE6IEC2150 地域経済論		2			●						
	EE6GME2650 地方財政論基礎		2			●						
	EA6ABA2900 備後経済研究		2			●						
	EE6SPM2200 スポーツマネジメント論		2			●						
	EE6GME2700 地方財政論		2				●					
	E06CMS2600 備後経済論Ⅰ		2				●					
	E06CMS2650 備後経済論Ⅱ		2				●					
	E06CMS2700 備後経済論Ⅲ		2				●					
	EE6GME3400 経済政策		2					●				
	EA6ABA3450 中小企業論		2						●			
共通教育科目 教養教育科目（F群）	G03RST1960 地域資源から学ぶ食文化と健康		2	●								瀬戸内自然共生学系
	G03RST1250 地域防災基礎		2	●								
	G03RST1300 地域防災応用		2		●							
工学部 各学科 専門教育科目	T06SSE2250 環境工学		2				●					
生命工学部 生物科学科 専門教育科目	LB6BII2400 動物資源学		2				●					
	LB6ABI4800 沿岸環境の保全と再生 *1		2								●	
生命工学部 海洋生物科学科　専門教育科目	LM6MCS2450 水産学概論		2			●						
	LM6FIE3100 沿岸域の環境と生物		2					●				
	LM6FIE3350 沿岸環境の保全と再生 *1		2						●			

演習系科目

科目区分	講義コード 授業科目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備考 (学系)
				前	後	前	後	前	後	前	後	
共通教育科目 教養教育科目（F群）	G03RST1150 備後に学ぶ地域の課題		1		●							境界領域
	G03RST1200 松永に学ぶ産業と文化		2	●								
共通教育科目 キャリア教育科目	G04CAE2161 キャリアデザイン実践演習		2			●						
	G04CAE3160 BINGO OPEN インターンシップ		2					●				
共通教育科目 教養教育科目（F群）	G03RST1400(前期) G03RST1401(後期) ドローンで撮る地域の魅力		2	●	●							備後圏域経済・文化学系
経済学部　共通 専門教育科目	EA6ABA1200 地域調査Ⅰ		2		●							
	EA6ABA2970 地域調査Ⅱ		2			●						
人間文化学部 人間文化学科　専門教育科目	HA6HIC3100 地域史研究法1		2					●				
	HA6HIC3130 地域史研究法2		2						●			
共通教育科目 教養教育科目（F群）	G03RST1740 地域に学ぶセルフメディケーション		2		●							瀬戸内自然共生学系
	G03RST2350 実践地域防災学		2			●						
	G03RST2980 地域の食を学ぶ演習		2			●						
生命工学部　各学科 専門教育科目 （広島大学との単位互換制度による授業科目）	LB5PRA2921 LN6FPS2151 LM6MCS2801 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習 *2		2			●						
	LB5PRA2911 LN6FPS2101 LM6MCS2751 命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習 *2		2			●						
	LB5PRA2931 LN6FPS2251 LM6MCS2851 瀬戸内海の養殖水産物を学ぶ総合演習 *2		2				●					

*1：「沿岸環境の保全と再生」について，生物科学科生は講義コード LB6ABI4800 の科目を履修してください。海洋生物科学科を含む他の学科の所属学生はLM6FIE3350の科目を履修してください。

*2：これら３科目は，広島大学生物生産学部と福山大学生命工学部との協定に基づき，広島大学で授業が行われる単位互換科目です。生命工学部の３学科で講義コードが異なっていますので，生物科学科生はLBで，健康栄養科学科生はLNで，海洋生物科学科生はLMで始まる講義コードの科目を，それぞれ履修してください。その他の学部学科の所属学生はLBで始まる講義コードの科目を履修してください。

様式第１号

令和 ７年 ４月 １日現在

副 専 攻 コ ー ス 説 明 書

開設学部名（経済学部）

副専攻の種別とコースの名称	学術的副専攻　経済学コース

１ 副専攻コースの紹介と概要

経済学コースでは，経済問題の根底にある大きな流れを理解したうえで，景気動向や国際経済，財政などの諸要素を科学的に分析できる知識と能力を養うための基礎学力を重視している。経済学をあらゆる方向から理論的かつ体系的に学んでいけるように，専門基礎科目をはじめ経済学コア科目，経済関係科目，スポーツマネジメント系科目，経営系科目，法律系科目を準備しているので，経済に関心を持つ学生の皆さんの積極的な受講を期待します。

２ 副専攻コースの開始時期と副専攻コース選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）

本コースの履修申請は，２年次前期以降の履修登録期間に行うことができます。ただし，履修希望者の受入上限人数を設定していますので，皆さんの希望に添えない可能性もあります。詳しくは下の８の欄を見てください。

本コースの履修に関して，既修得要件は特にありません。

３ 副専攻コースの履修について

（１） 副専攻コースの到達目標

経済学に関する最低限必要な基本的な概念と基礎理論を習得できる。さらに実社会における様々な市場の需要と供給，価格の動きが説明できる力を養いつつ，理論と実際の違いの要因を考えることができる。これらに加え日本経済とその周辺諸国の経済情勢，備後地域経済，企業経営と会計など，広範かつ体系的に理解できるようになることです。

（２） 副専攻コースを履修する上での注意点

１　本コースは，経済学部の３学科以外の学部・学科所属の学生が履修できます。ただし，履修申請を行う時点までの累計ＧＰＡ値が３．０以上であることが条件となります。

２　本コースの授業科目は，自由聴講制により５科目１０単位までは所属学科の卒業要件に関わる専門教育科目（選択科目）の単位として認定できます。

３　本コースで開講される「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の２科目は，週２コマ，半期計３０回の授業を実施する４単位科目となります。

４　所属学科の授業時間割との関係で，登録した副専攻コースの授業科目の履修が制限される場合があります。

４ 教育内容

経済学科，国際経済学科，税務会計学科の３分野における基礎から専門的知識の修得ができるようカリキュラムが構成されています。

５ 授業科目及び授業内容

本コースの授業科目については別添の授業科目配当表を参照してください。

各授業科目の内容については，各年度に公開される当該科目のシラバスを参照してください。

６ 評 価

（１） 試験・成績評価

原則として定期試験を行います。各授業科目の成績評価の方法は当該科目のシラバスに記載しています。講義科目では原則として定期試験を行いますが，毎回実施する小テストの点数等から総合的に成績評価を行う科目もあります。

（２） 修了要件

本コースの授業科目から，Ａ群の必修科目（〇）２科目８単位，及びＢ群，Ｃ群，並びにＤ群科目についてそれぞれ備考欄に記載されている単位数以上を含む，計２０単位以上を修得した者に，卒業時に副専攻（経済学コース）の修了証書を授与します。

７ 副専攻コースの責任体制

本コースの修了認定は，経済学部の学部教授会が行います。
本コースに関わる事務は，教務課と経済・人間文化学部事務室が協力して行います。

８ 副専攻コース履修希望者の受入上限数

３０名を上限とします。年度により変更があるので確認してください。
履修登録期間における履修希望者が上記の定員を超えた場合には，前年度までの累計ＧＰＡ値が高い者を優先します。

９ 副専攻コースの既修得単位等の認定単位数等

履修申請時に別添の本コースの授業科目配当表に記載されている科目の単位を既に修得している場合，副専攻履修申請書（様式第２号）の裏面の表に必要事項を記入すれば，それらの科目の単位は本コースの修了要件単位に算入されます。

学術的副専攻(経済学コース)授業科目配当表

科目区分			講義コード 授業科目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
						前	後	前	後	前	後	前	後	
経済学部共通専門教育科目	専門基礎科目	A群	E05MBS1221, E05MBS1222 基礎簿記 *1		2		●							
			EE6GME2111, EE6GME2113 ミクロ経済学 *2	○	4			●	●					
			EE6GME2121, EE6GME2123 マクロ経済学 *2	○	4			●	●					
			EE6GME2131, EE6GME2132 経済数学 *2		2			●	●					
	経済系科目	B群	EE6GME2100 経済統計学Ⅰ		2			●						4単位以上の修得が必要
			EE6GME2350 金融システム		2			●						
			EE6GME2250 租税論		2			●						
			EE6GME2150 経済統計学Ⅱ		2				●					
			EE6GME2200 財政学		2				●					
			EE6GME2400 金融論		2				●					
			EE6GME2450 資本市場論		2				●					
			EE6GME3840 証券市場論		2					●				
			EE6GME3410 経済政策		2					●				
			EI6IEC3160 国際経済学		2					●				
			EI6IEC3250 国際貿易論		2					●				
			EE6GME3360 環境経済学		2						●			
			EI6IEC2180 アメリカ経済論Ⅰ		2			●						
			EE6IEC2300 中国経済論Ⅰ		2			●						
			EI6IEC2210 アメリカ経済論Ⅱ		2				●					
			EE6IEC2350 中国経済論Ⅱ		2				●					
			E06CMS2600 備後経済論Ⅰ		2				●					
			E06CMS2650 備後経済論Ⅱ		2				●					
			E06CMS2700 備後経済論Ⅲ		2				●					
			EE6GME3200 日本経済論（昭和期）		2					●				
			EE6GME3250 日本経済論（平成期）		2						●			

*1：基礎簿記は2クラス開講しているので講義コードが2つあります。どちらの講義コードのクラスを履修しても構いません。

*2：ミクロ経済学，マクロ経済学，経済数学は，それぞれ前期と後期に1クラスずつ開講しています。どちらの期に履修するのかによって講義コードが異なりますので注意してください。

科目区分			講義コード 授 業 科 目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備　　考
						前	後	前	後	前	後	前	後	
経済学部　共通専門教育科目	スポーツマネジメント系科目	C群	EE6SPM1100 現代スポーツ論Ⅰ		2	●								2単位以上の修得が必要
			EE6SPM1200 スポーツ理論Ⅰ		2	●								
			EE6SPM1150 現代スポーツ論Ⅱ		2		●							
			EE6SPM1250 スポーツ理論Ⅱ		2		●							
			EE6SPM2100 スポーツ経済学Ⅰ		2			●						
			EE6SPM2200 スポーツマネジメント論		2			●						
			EE6SPM2150 スポーツ経済学Ⅱ		2				●					
			EE6SPM2250 生涯スポーツ論		2				●					
			EE6SPM3100 スポーツ産業論		2					●				
			EE6SPM3250 スポーツ経営学		2					●				
			EE6SPM3200 スポーツマーケティング論		2						●			
	経営系科目	D群	EA6ABA1100 会計学総論Ⅰ		2	●								2単位以上の修得が必要
			EA6ABA1150 会計学総論Ⅱ		2		●							
			EA6ABA2100 経営学Ⅰ		2			●						
			EA6ABA2200 マーケティング論Ⅰ		2			●						
			EA6ABA2600 財務会計Ⅰ		2			●						
			EA6ABA2150 経営学Ⅱ		2				●					
			EA6ABA2250 マーケティング論Ⅱ		2				●					
			EA6ABA2650 財務会計Ⅱ		2				●					
			EA6ABA3100 経営戦略論Ⅰ		2					●				
			EA6ABA3200 経営組織論Ⅰ		2					●				
			EA6ABA3150 経営戦略論Ⅱ		2						●			
			EA6ABA3300 経営組織論Ⅱ		2						●			

様式第１号

令和 ７年 ４月 １日現在

副 専 攻 コ ー ス 説 明 書

開設学部名（人間文化学部）

副専攻の種別とコースの名称	学術的副専攻　文学・歴史コース

１ 副専攻コースの紹介と概要

本コースは，文学と歴史を主とした領域横断的な学びが可能となるところに特色があります。本コースでは，日本・中国・欧米の文化を学ぶ入門科目において基礎的な知識を修得し，２年次以降の専門科目においては，日本・中国・欧米の文学・歴史に対して更なる理解を深め，社会の多様性を知り，人文学に関する専門知識と態度を身につけることができます。

２ 副専攻コースの開始時期と副専攻コース選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）

本コースの履修申請は，２年次前期以降の履修登録期間に行うことができます。ただし，下の８の欄に記載しているように，履修希望者の受入人数を設定していますので，皆さんの希望にそえない可能性もあります。詳しくは８の欄を見てください。

本コースの履修に関して，既修得要件は特にありません。

３ 副専攻コースの履修について

（１） 副専攻コースの到達目標

到達目標は，日本・中国・欧米の文化についての基礎的な知識，及び文学・歴史の各領域における専門的な知識を修得して教養を深め，知識の社会活用を考えることを通じて，自らの言語運用能力（思考力・分析力・表現力）を伸ばしていくことです。

（２） 副専攻コースを履修する上での注意点

１　本コースは，人間文化学部人間文化学科以外の学部・学科所属の学生が履修できます。ただし，履修申請を行う時点までの累計ＧＰＡ値が３．０以上であることが条件となります。

２　演習系科目については，当該科目を卒業要件科目とする学部・学科生を最優先とし，次に本副専攻コースの履修登録を行っている者を優先します。

３　所属学科の授業時間割との関係で，登録した副専攻コースの授業科目の履修が制限される場合があります。

４　本コースの授業科目は，自由聴講制により５科目１０単位までは所属学科の卒業要件に関わる専門教育科目（選択科目）の単位として認定できます。ただし，人間文化学部生は「学部内専門教育科目履修届（人間文化学部生用）」の提出により，８科目１６単位まで上記と同様の単位として認定できます。

５　専門教育科目では，既に修得している知識を前提とした授業が行われるため，受講希望者は，授業理解に必要となる基本的な知識を持っている，もしくは個別に予習を行う必要があります。

４ 教育内容

本コースの授業科目は，日本・中国・欧米の「文化に関する基礎的知識を学ぶ入門科目」と「文学・歴史の各領域における専門科目」から構成されています。本コースでは，これらの科目を通じて，人文学における文学・歴史・文化領域の知識を幅広く修得することができ，さらに，文献の調査や読解を踏まえた発表及びグループワーク等を通して，言語運用能力を高めることができます。

５ 授業科目及び授業内容

本コースの授業科目については別添の授業科目配当表を参照してください。
各科目の内容については，各年度に公開されるシラバスを参照してください。

６ 評 価

（１） 試験・成績評価

各授業科目のシラバスに記載された，試験・成績評価の方法に準じます。

（２） 修了要件

本コースの授業科目から１０科目２０単位以上を修得した者に，卒業時に副専攻（文学・歴史コース）の修了証書を授与します。

７ 副専攻コースの責任体制

本コースの修了認定は，人間文化学部の学部教授会が行います。
本コースに関わる事務は，教務課と関係学部事務室が協力して行います。

８ 副専攻コース履修希望者の受入上限数

各入学年次生につき，若干名とします。
２年次の年度初めの履修登録期間における履修希望者が上記の定員を超えた場合には，前年度までの累計ＧＰＡ値が高い者を優先します。なお，定員に空きが生じている場合には，２年次後期以降の履修登録期間にも履修者の募集を行います。

９ 副専攻コースの既修得単位等の認定単位数等

履修申請時に別添の授業科目配当表に記載されている科目の単位を既に修得している場合，副専攻履修申請書（様式第２号）の裏面の表に必要事項を記入すれば，それらの科目の単位は本コースの修了要件単位に算入されます。

学術的副専攻（文学・歴史コース）授業科目配当表

科目区分	講義コード 授業科目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
				前	後	前	後	前	後	前	後	
専門教育科目 人間文化学部 人間文化学科	H05MBS1210 中国文化入門		2		●							
	HA5BDS1200 日本文化入門		2		●							
	HA5BDS1330 英米文化入門		2		●							西暦偶数年度に開講
	HA6HIC2100 日本の歴史と文化1		2			●						
	HA6HIC2130 日本の歴史と文化2		2				●					
	HA6HIC2160 東アジアの歴史と文化1		2			●						
	HA6HIC2190 東アジアの歴史と文化2		2				●					
	HA6HIC2220 ヨーロッパの歴史と文化1		2			●						
	HA6HIC2250 ヨーロッパの歴史と文化2		2				●					
	HA6LIT2160 日本近現代文学研究1		2			●						
	HA6LIT2190 日本近現代文学研究2		2				●					
	HA6LIT3350 英米文学研究1		2					●				
	HA6LIT3370 英米文学研究2		2						●			
	HA6LIT3380 ヨーロッパ文学研究1		2					●				
	HA6LIT3400 ヨーロッパ文学研究2		2						●			

様式第１号

令和 ７年 ４月 １日現在

副 専 攻 コ ー ス 説 明 書

開設学部名（人間文化学部）

副専攻の種別とコースの名称	学術的副専攻　心理学コース

１ 副専攻コースの紹介と概要

心理学コースは，人々の心の健康の保持増進に寄与するために，心理支援を念頭に置いて，人間の心のはたらきや行動について総合的に学びます。このコースでは，保健医療，教育，福祉，司法・犯罪，産業・労働等の諸分野で，心理学の専門的知識と方法を応用できる地域の中核的役割を担う人材を育成することを目指します。

２ 副専攻コースの開始時期と副専攻コース選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）

本コースの履修申請は，２年次前期以降の履修登録期間に行うことができます。ただし，下の８の欄に記載しているように，履修希望者の受入上限人数を設定していますので，皆さんの希望にそえない可能性もあります。詳しくは８の欄を見てください。

本コースの履修に関して，既修得要件は特にありません。

３ 副専攻コースの履修について

（１） 副専攻コースの到達目標

到達目標は，本コースの授業科目の履修を通じて，幅広い領域の心理学を基礎から応用まで丁寧に学び，心理学的なものの見方・考え方，心理学的な問題解決の方法を身に付けることができるようになることです。

（２） 副専攻コースを履修する上での注意点

１　本コースは，人間文化学部心理学科以外の学部・学科所属の学生が履修できます。ただし，履修申請を行う時点までの累計ＧＰＡ値が３．０以上であることが条件となります。

２　学部の専門教育科目の場合には，当該科目を卒業要件科目とする学部生を最優先とし，次に本副専攻コースの履修登録を行っている者を優先します。

３　本コースの授業科目のうち，所属学部の共通専門科目は，単位を修得した場合には，所属学科の卒業要件に関わる専門教育科目の単位としては認定されます。

４　本副専攻コースの授業科目は，自由聴講制により５科目１０単位までは所属学科の卒業要件に関わる専門教育科目（選択科目）の単位として認定できます。ただし，人間文化学部生は「学部内専門教育科目履修届（人間文化学部生用）」の提出により，８科目１６単位まで上記と同様の単位として認定できます。

５　所属学科の授業時間割との関係で，登録した副専攻コースの授業科目の履修が制限される場合があります。

４ 教育内容

本コースの授業科目は，教育，健康，社会，犯罪，認知，発達，臨床などの心理学の諸領域の各科目群から構成されています。講義科目については，全体で１０科目２０単位以上の単位を修得しなければならないように修了要件を定めているため，幅広い領域の心理学を基礎から応用までを幅広く修得することができます。そのことにより，心理学的なものの見方・考え方，心理学的な問題解決の方法を身に付けることができます。

５ 授業科目及び授業内容

本コースの授業科目については別添の授業科目配当表を参照してください。
各科目の内容については，各年度に公開される当該科目のシラバスを参照してください。

６ 評 価

（１） 試験・成績評価

講義科目では原則として定期試験を行いますが，毎回実施する小テストの点数等から総合的に成績評価を行う科目もあります。各科目の成績評価の方法は当該科目のシラバスに記載しています。

（２） 修了要件

本コースの授業科目から１０科目２０単位以上を修得した者に，卒業時に副専攻（心理学コース）の修了証書を授与します。

７ 副専攻コースの責任体制

本コースの修了認定は，人間文化学部教授会が行います。
本コースに関わる事務は，教務課と人間文化学部事務室が協力して行います。

８ 副専攻コース履修希望者の受入上限数

各入学年次生について若干名とします。
２年次の年度初めの履修登録期間における履修希望者が上記の定員を超えた場合には，前年度までの累計ＧＰＡ値が高い者を優先します。

９ 副専攻コースの既修得単位等の認定単位数等

履修申請時に別添の本コースの授業科目配当表に記載されている科目の単位を既に修得している場合，副専攻履修申請書（様式第２号）の裏面の表に必要事項を記入すれば，それらの科目の単位は本コースの修了要件単位に算入されます。

学術的副専攻(心理学コース)授業科目配当表

科目区分	講義コード 授業科目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
				前	後	前	後	前	後	前	後	
人間文化学部 心理学科 専門教育科目	H05BFS1100 心理学概論		2	●								
	HP5BDS1250 心理学研究法		2		●							
	HP5BDS1300 心理学総論		2		●							
	HP6CRS2150 臨床心理学概論		2			●						
	HP6CRS2200 知覚・認知心理学		2			●						
	HP6CRS2350 発達心理学		2			●						
	HP6CRS2300 社会・集団・家族心理学		2				●					
	HP6CRS2500 感情・人格心理学		2				●					
	HP6ADS2100 教育・学校心理学		2				●					
	HP6ADS2150 司法・犯罪心理学		2				●					
	HP6ADS3100 少年と犯罪		2					●				
	HP6ADS3450 捜査心理学		2					●				
	HP6ADS3200 健康・医療心理学		2						●			
	HP6ADS3350 家族の人間関係		2						●			
	HP6ADS3400 産業・組織心理学		2						●			

様式第１号

令和 ７年 ４月 １日現在

副 専 攻 コ ー ス 説 明 書

開設学部名（人間文化学部）

副専攻の種別とコースの名称	学術的副専攻　メディア・映像学コース

１ 副専攻コースの紹介と概要

学術的副専攻コースである本コースは，様々な分野において，情報を的確に読み解き，メディアで表現し，メッセージを明確に発信するための基礎的な能力の習得を目指します。

２ 副専攻コースの開始時期と副専攻コース選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）

本コースの履修申請は，２年次前期以降の履修登録期間に行うことができます。ただし，下の８の欄に記載しているように，履修希望者の受入上限人数を設定していますので，皆さんの希望にそえない可能性もあります。詳しくは８の欄を見てください。またコースの特性上，パソコンや専門ソフトを使用しますので，そのための環境整備が必要になります。

本コースの履修に関して，既修得要件は特にありません。

３ 副専攻コースの履修について

（１） 副専攻コースの到達目標

本コースの到達目標は，社会情報系科目群・映像表現系科目群をバランスよく学習することを通じ，「デザイン・表現・コミュニケーションの企画・構成の基本が理解できること」，「ソフトウェアを活用し，初歩的な制作・表現が出来ること」「様々なメディアを活用し情報の収集・分析が出来ること」です。

（２） 副専攻コースを履修する上での注意点

１　本コースは，人間文化学部メディア・映像学科以外の学部・学科所属の学生が履修できます。ただし，履修申請を行う時点までの累計ＧＰＡ値が３．０以上であることが条件となります。

２　演習系科目については，使用する機材等の関係から人数制限を行う可能性があります。その場合，当該科目を卒業要件科目とする学部・学科生を最優先とし，次に本副専攻コースの履修登録を行っている者を優先します。

３　本コースの授業科目は，自由聴講制により５科目１０単位までは所属学科の卒業要件に関わる専門教育科目（選択科目）の単位として認定できます。ただし，人間文化学部生は「学部内専門教育科目履修届（人間文化学部生用）」の提出により，８科目１６単位まで上記と同様の単位として認定できます。

４ 教育内容

本コースの授業科目は，「社会情報系科目群」「映像表現系科目群」で構成され，各分野における基礎的な知識・技能を身につけることができるように計画されています。

５ 授業科目及び授業内容

本コースの授業科目については別添の授業科目配当表を参照してください。

各科目の内容については，各年度に公開される当該科目のシラバスを参照してください。

６ 評 価

（１） 試験・成績評価

講義科目では原則として定期試験を行いますが，毎回実施する小テストの点数等から総合的に成績評価を行う科目もあります。各科目の成績評価の方法は当該科目のシラバスに記載しています。

（２） 修了要件

本コースの授業科目から，必修科目（◯）５科目１０単位を含む計１０科目２０単位以上を修得した者に，卒業時に副専攻（メディア・映像学コース）の修了証書を授与します。

７ 副専攻コースの責任体制

本コースの修了認定は，人間文化学部教授会が行います。
本コースに関わる事務は，教務課と人間文化学部事務室が協力して行います。

８ 副専攻コース履修希望者の受入上限数

各入学年次生について，演習に使用する機材等の関係から若干名の受け入れとします。
２年次の年度初めの履修登録期間における履修希望者が上記の定員を超えた場合には，前年度までの累計ＧＰＡ値が高い者を優先します。なお，定員に空きが生じている場合には，２年次後期以降の履修登録期間にも履修者の募集を行います。

９ 副専攻コースの既修得単位等の認定単位数等

履修申請時に別添の本コースの授業科目配当表に記載されている科目の単位を既に修得している場合，副専攻履修申請書（様式第２号）の裏面の表に必要事項を記入すれば，それらの科目の単位は本コースの修了要件単位に算入されます。

学術的副専攻(メディア・映像学コース)授業科目配当表

科目区分	講義コード 授業科目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
				前	後	前	後	前	後	前	後	
人間文化学部 メディア・映像学科 専門教育科目	HM5BDS1150 メディア表現入門	○	2	●								
	HM6FSU1100 マスメディア論	○	2	●								
	HM6FSU1150 メディア文化論		2	●								
	HM6EPS1100 アナウンス		2	●								
	HM5BDS1250 映像文化入門	○	2		●							
	HM6FSU1250 メディアデザイン論	○	2		●							
	HM6FSU1200 情報ネットワーク	○	2		●							
	HM6FSU2100 メディアと調査		2			●						
	HM6FSU2150 ゲームメディア論		2			●						西暦偶数年度に開講
	HM6EPS2500 グラフィックデザイン基礎		2			●						
	HM6EPS2550 グラフィックデザイン応用		2			●						
	HM6FSU2200 映画論		2				●					
	HM6FSU2250 マルチメディア論		2				●					
	HM6FSU2300 eラーニング論		2				●					西暦偶数年度に開講
	HM6FSU2350 メディア・リテラシー論		2				●					西暦奇数年度に開講
	HM6FSU2400 ソフトウェア制作論		2				●					
	HM6EPS2250 アニメ論		2				●					
	HM6RAS3150 情報セキュリティ		2					●				
	HM6RAS3200 CG表現論		2						●			
	HM6RAS3250 地域メディア論		2						●			

様式第１号

令和 ７年 ４月 １日現在

副 専 攻 コ ー ス 説 明 書

開講学部名（工学部）

副専攻の種別とコースの名称	学術的副専攻　機械システム工学コース

１ 副専攻コースの紹介と概要

機械システム工学の共通分野（数学，物理系科目）と，機械システム工学を構成する設計･生産，振動･制御，材料，熱流体分野における基礎的な科目を学びます。

２ 副専攻コースの開始時期と副専攻コース選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）

本コースの履修申請は，２年次前期以降の履修登録期間に行うことができます。ただし，下の８の欄に記載しているように，履修希望者の受入上限人数を設定していますので，皆さんの希望にそえない可能性もあります。詳しくは８の欄を見てください。

本コースの履修に関して，既修得要件は特にありません。

３ 副専攻コースの履修について

（１） 副専攻コースの到達目標

機械システム工学の基礎的な知識及び技能を身につけることを到達目標とします。

（２） 副専攻コースを履修する上での注意点

１　本コースは，工学部機械システム工学科以外の学部・学科所属の学生が履修できます。ただし，履修申請を行う時点までの累計ＧＰＡ値が３．０以上であることが条件となります。

２　本コースの授業科目は，自由聴講制により５科目１０単位までは所属学科の卒業要件に関わる専門教育科目（選択科目）の単位として認定できます。

３　所属学科の授業時間割との関係で，登録した副専攻コースの授業科目の履修が制限される場合があります。

４ 教育内容

本コースは講義科目，実験･実習科目で構成され，各分野における基礎的な知識及び技能を身につけることができるようになっています。

５ 授業科目及び授業内容

本コースの授業科目については別添の授業科目配当表を参照してください。

各科目の内容については，各年度に公開される当該科目のシラバスを参照してください。

６ 評 価

（１） 試験・成績評価

講義科目では原則として定期試験を行いますが，毎回実施する小テストの点数等から総合的に成績評価を行う科目もあります。実験･実習科目についてはレポート等の成果物で評価します。各科目の成績評価の方法は当該科目のシラバスに記載しています。

（２） 修了要件

本コースの授業科目から，必修科目（〇）３科目６単位を含む計１０科目２０単位以上を修得した者に，卒業時に副専攻（機械システム工学コース）の修了証書を授与します。

７ 副専攻コースの責任体制

本コースの修了認定は，工学部教授会が行います。
本コースに関わる事務は，教務課と工学部･生命工学部事務室が協力して行います。

８ 副専攻コース履修希望者の受入上限数

各入学年次生について３名を上限とします。
２年次の年度初めの履修登録期間における履修希望者が上記の定員を超えた場合には，前年度までの累計ＧＰＡ値が高い者を優先します。

９ 副専攻コースの既修得単位等の認定単位数等

履修申請時に別添の本コースの授業科目配当表に記載されている科目の単位を既に修得している場合，副専攻履修申請書（様式第２号）の裏面の表に必要事項を記入すれば，それらの科目の単位は本コースの修了要件単位に算入されます。

学術的副専攻(機械システム工学コース)授業科目配当表

科目区分	講義コード 授業科目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
				前	後	前	後	前	後	前	後	
工学部 機械システム工学科 専門教育科目	TG5FUS1100 数学Ⅰ	○	2	●								
	TG5FUS1200 物理学Ⅰ	○	2	●								
	TG6COM1100 機械システム工学入門		2	●								
	TG6MED1100 機械設計製図基礎		2	●								
	TG5FUS1151 数学Ⅱ	○	2		●							
	TG5FUS1300 数学Ⅲ		2		●							
	TA5FUS1250 物理学Ⅱ		2		●							
	TG6DAP1100 機械構造実習		2		●							
	TG6DAP1150 生産加工システム		2		●							
	TG6MAT1100 機械材料学		2		●							
	TG6COM2100 工業力学		2			●						
	TG6DAP2150 モノづくり実習		2			●						
	TG6COM2150 機械工学実験Ⅰ		2			●						
	TG6MAT2150 材料力学Ⅰ		2			●						
	TG6HAF2100 流体工学Ⅰ		2			●						
	TG6HAF2150 熱力学Ⅰ		2			●						
	TG6COM2200 機械力学		2				●					工業力学が履修済であることが履修要件
	TG6MAC2150 システム制御入門		2				●					

様式第１号

令和 ７年 ４月 １日現在

副 専 攻 コ ー ス 説 明 書

開設学部名（工学部）

副専攻の種別とコースの名称	学術的副専攻　デジタルサステナビリティコース

１ 副専攻コースの紹介と概要

本コースは，学際的な工学専門知識を通じて，デジタル化が進む社会の持続可能（サステナブル）な成長に貢献する次世代エンジニアの育成を目的として工学部で実施します。カーボンニュートラル，社会安全工学，数理・数学，デジタルの４分野の科目を通じて，学生は最先端の工学知識とスキルを修得し，複雑化する現代社会の課題に革新的なアプローチで取り組む総合的な実力を身に着けることができます。

２ 副専攻コースの開始時期と副専攻コース選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）

本コースの履修申請は，２年次前期以降の履修登録期間に行うことができます。本コースの履修者数については特に制限を設けませんが，下の８の欄に記載しているように，履修者の受入上限人数を設定している科目については，皆さんの履修希望にそえない可能性もあります。詳しくは８の欄を見てください。

本コースの履修に関して，既修得要件は特にありません。

３ 副専攻コースの履修について

（１） 副専攻コースの到達目標

持続可能なデジタル社会の成長に貢献するための工学の基礎的な知識及び技能を身につけることを到達目標とします。

（２） 副専攻コースを履修する上での注意点

１　本コースは，工学部の４学科以外の学部・学科所属の学生が履修できます。ただし，履修申請を行う時点までの累計ＧＰＡ値が３．０以上であることが条件となります。

２　本副専攻コースの配当科目は，自由聴講制により５科目１０単位までは所属学科の卒業要件に関わる専門教育科目（選択科目）の単位として認定できます。

３　所属学科の授業時間割との関係で，登録した副専攻コースの授業科目の履修が制限される場合があります。

４ 教育内容

本コースは講義科目，実験･実習科目で構成され，各分野における基礎的な知識及び技能を身につけることができるようになっています。

５ 授業科目及び授業内容

本コースの科目については別添の開講科目配当表を参照してください。

各授業科目の内容については，各年度に公開される当該科目のシラバスを参照してください。

６ 評 価

（１） 試験・成績評価

講義科目では原則として定期試験を行いますが，毎回実施する小テストの点数等から総合的に成績評価を行う科目もあります。実験･実習科目についてはレポート等の成果物で評価します。各科目の成績評価の方法は当該科目のシラバスに記載しています。

（２） 修了要件

本コースの授業科目から１０科目２０単位以上を修得した者に，卒業時に副専攻（デジタルサステナビリティコース）の修了証書を授与します。

７ 副専攻コースの責任体制

本コースの修了認定は，工学部教授会が行います。
本コースに関わる事務は，教務課と工学部･生命工学部事務室が協力して行います。

８ 副専攻コース履修希望者の受入上限数

受け入れ上限は特に規定しませんが，以下の受講人数制限を課している科目については，工学部各学科所属の受講生を優先する場合があります。【建築材料実験（６０名，建築学科を優先），Ｐｙｔｈｏｎプログラミング Ⅰ（８０名，情報工学科を優先），Ｐｙｔｈｏｎプログラミング Ⅱ（８０名，情報工学科を優先），情報センシング（６０名，情報工学科を優先），地域ＩＴソリューションＰＢＬ（１００名，情報工学科を優先），建築デジタルデザイン Ⅱ（９０名，建築学科を優先），プログラミング基礎（５０名，電気電子工学科を優先），組込みプログラミング（３０名，電気電子工学科を優先），ＭＢＤ（５０名，電気電子工学科を優先）】

９ 副専攻コースの既修得単位等の認定単位数等

履修申請時に別添の本コースの授業科目配当表に記載されている科目の単位を既に修得している場合，副専攻履修申請書（様式第２号）の裏面の表に必要事項を記入すれば，それらの科目の単位は本コースの修了要件単位に算入されます。

学術的副専攻（デジタルサステナビリティコース）授業科目配当表

科目区分		講義コード 授業科目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
					前	後	前	後	前	後	前	後	
工学部専門教育科目	カーボンニュートラル分野	T06CNT1100 スマートテクノロジー概論		2	●								
		T06CNT2100 建築構造材料		2			●						
		T06CNT2150 建築環境工学Ⅰ		2			●						
		T06CNT3200 建築設備		2					●				
	社会安全工学分野	T06SSE2250 環境工学		2				●					
		T06SSE2350 交通マネジメント		2				●					
		T06SSE2400 構造力学		2				●					
		T06SSE3600 防災とＩＣＴ		2					●				
		T06SSE3200 都市計画		2					●				
		T06SSE3650 建築材料実験		2					●				
		T06SSE3300 安全工学		2						●			
		T06SSE3400 建築防災工学		2						●			
		T06SSE3450 建築法規		2						●			
	数理・数学分野	T06MAT1100 電気電子基礎		2	●								
		T06MAT1150 電気電子数学Ⅰ		2	●								
		T06MAT1200 建築数理		2	●								
		T06MAT1250 電気電子数学Ⅱ		2		●							
		T06MAT2100 離散数学		2			●						
		T06MAT2150 コンピュータと数理		2				●					
	デジタル分野	T06DTS1100 デザインリサーチ演習		2	●								
		T06DTS1150 Pythonプログラミング Ⅰ		4	●								
		T06DTS1200 プログラミング基礎		2		●							
		T06DTS1250 Pythonプログラミング Ⅱ		4		●							
		T06DTS1300 情報センシング		2		●							
		T06DTS2100 コンピュータネットワーク		2			●						
		T06DTS2150 デジタルシステム		2			●						
		T06DTS2200 人工知能		2			●						
		T06DTS2250 地域ＩＴソリューションＰＢＬ		2			●						
		T06DTS2300 組込みプログラミング		2				●					
		T06DTS3100 建築デジタルデザインⅡ		2					●				
		T06DTS3150 MBD		2					●				
		T06DTS4100 電気工学概論		2							●		

様式第１号

令和 ７年 ４月 １日現在

副 専 攻 コ ー ス 説 明 書

開設学部名（生命工学部）

副専攻の種別とコースの名称	学術的副専攻　生物科学コース

１ 副専攻コースの紹介と概要

生物科学コースでは，生命に対する畏敬心と倫理観を養うとともに生物多様性や生物機能の利用などに関する専門知識の修得を目的とします。

２ 副専攻コースの開始時期と副専攻コース選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）

本コースの履修申請は，２年次前期以降の履修登録期間に行うことができます。ただし，履修希望者の受入上限人数を設定していますので，皆さんの希望に添えない可能性もあります。詳しくは下の８の欄を見てください。

本コースの履修に関して，既修得要件は特にありません。

３ 副専攻コースの履修について

（１） 副専攻コースの到達目標

１ 生命に対する畏敬心と倫理観をもつ。
２ 食料，資源，環境に関する諸問題の原因を論理的に説明でき，解決手段を提案することができる。
３ 生物科学分野の知識を習得することで，主専攻の学術分野における考え方の幅を広げることができる。

（２） 副専攻コースを履修する上での注意点

１ 本コースは，生命工学部生物科学科以外の学部・学科所属の学生が履修できます。ただし，履修申請を行う時点までの累計ＧＰＡ値が３．０以上であることが条件となります。
２ 本コースの授業科目は，原則講義形式で行います。
３ 本コースの授業科目の中には，セメスター制により各週２コマ受講する科目があります。
４ 本コースの授業科目は，自由聴講制により５科目１０単位までは所属学科の卒業要件に関わる専門教育科目（選択科目）の単位として認定できます。
５ 所属学科の授業時間割との関係で，登録した副専攻コースの授業科目の履修が制限される場合があります。

４ 教育内容

生物多様性（種，個体群，群集，生態系，進化等）と生物機能（個体，細胞，有機物質，物質生産，発酵等）に関する理解力と生命に対する倫理観を習得できるようにカリキュラムを構成しています。

５ 授業科目及び授業内容

本コースの授業科目については別添の授業科目配当表を参照してください。
各科目の内容については，各年度に公開される当該科目のシラバスを参照してください。

６ 評 価

（１） 試験・成績評価

原則として定期試験を行います。各科目の成績評価の方法は当該科目のシラバスに記載しています。

（２） 修了要件

本コースの授業科目から１０科目２０単位以上を修得した者に，卒業時に副専攻（生物科学コース）の修了証書を授与します。

７ 副専攻コースの責任体制

本コースの修了認定は，生命工学部の学部教授会が行います。
本コースに関わる事務は，教務課と工学部・生命工学部事務室が協力して行います。

８ 副専攻コース履修希望者の受入上限数

３０名を上限とします。年度により変更があるので確認してください。
履修登録期間における履修希望者が上記の定員を超えた場合には，前年度までの累計ＧＰＡ値が高い者を優先します。

９ 副専攻コースの既修得単位等の認定単位数等

履修申請時に，別添の本コースの授業科目配当表に記載されている科目の中で，単位を既に修得している科目は，本コースの科目として認定できる場合があります。副専攻履修申請書（様式第２号）の裏面の表に必要事項を記入すれば，個々の申請者の取得状況を検討し，生命工学部教授会の承認により認定します。

学術的副専攻(生物科学コース)授業科目配当表

科目区分		講義コード 授業科目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
					前	後	前	後	前	後	前	後	
専門教育科目	生命工学部 生物科学科	生物多様性系	LB6BII2800 地球環境科学 (地球の生命と進化)		2			●						
			LB6BII2400 動物資源学		2				●					
			LB6BII2850 保全生物学 (生物多様性の保全)		2				●					
			LB6ABI2200 環境微生物学		2				●					
			LB6ABI3800 環境ゲノム学		2					●				
			LB6ABI3850 環境分析学		2					●				
			LB6BII4800 多様性生物学		2							●		
		生物機能利用系	LB6BII2300 食品化学		2			●						
			LB6ABI2300 醗酵生産・醸造学		2				●					
			LB6BII2200 微生物育種学		2				●					
			LB6BII2150 遺伝子工学		2				●					
			LB6ABI3200 微生物培養工学		2					●				
			LB6ABI3300 ワイン醸造学		2					●				
			LB6ABI3500 植物機能利用学		2						●			

様式第１号

令和 ７年 ４月 １日現在

副 専 攻 コ ー ス 説 明 書

開設学部名（生命工学部）

副専攻の種別とコースの名称	学術的副専攻　海洋生物学コース

１ 副専攻コースの紹介と概要

海洋生物科学科の授業科目で構成される本コースは，当学科のディプロマポリシーの「1．海洋環境と生物に関する基礎知識を持ち，海洋生態系の成り立ちを理解している。」に関連する科目を軸に構成したコースです。このコースでは，海洋生物の分類，発生，生理，行動などの海洋生物学，また海洋環境や生物多様性などの海洋環境学を幅広く学びます。

２ 副専攻コースの開始時期と副専攻コース選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）

本コースの履修申請は，２年次前期以降の履修登録期間に行うことができます。ただし，下の８の欄に記載しているように，履修希望者の受入上限人数を設定していますので，皆さんの希望にそえない可能性もあります。詳しくは８の欄を見てください。

本コースの履修に関して，既修得要件は特にありません。

３ 副専攻コースの履修について

（１） 副専攻コースの到達目標

到達目標は，本コースの科目の履修を通じて修得した海洋生物と海洋環境に関する知識に基づいて，持続可能な社会のために海洋の生物資源を守る方策について考察できるようになることです。

（２） 副専攻コースを履修する上での注意点

１　本コースは，生命工学部海洋生物科学科以外の学部・学科所属の学生が履修できます。ただし，履修申請を行う時点までの累計ＧＰＡ値が３．０以上であることが条件となります。

２　本コースの授業科目は，自由聴講制により５科目１０単位までは所属学科の卒業要件に関わる専門教育科目（選択科目）の単位として認定できます。

３　所属学科の授業時間割との関係で，登録した副専攻コースの授業科目の履修が制限される場合があります。

４ 教育内容

本コースの授業科目は，海洋生物科学科の専門教育科目のうち，海洋生物と海洋環境に関する科目群で構成されています。中でも，この副専攻コースの核となる５科目１０単位を必修，その他９科目１８単位から５科目１０単位以上の単位を修得しなければならないように修了要件を定めているため，海洋生物と海洋環境についてバランスよく学ぶことができます。

５ 授業科目及び授業内容

本コースの授業科目については別添の授業科目配当表を参照してください。

各科目の内容については，各年度に公開される当該科目のシラバスを参照してください。

６ 評 価

（１） 試験・成績評価

講義科目では原則として定期試験を行いますが，毎回実施する小テストの点数等から総合的に成績評価を行う科目もあります。各科目の成績評価の方法は当該科目のシラバスに記載しています。

（２） 修了要件

本コースの授業科目から，必修科目５科目１０単位を含む計１０科目２０単位以上を修得した者に，卒業時に副専攻（海洋生物学コース）の修了証書を授与します。

７ 副専攻コースの責任体制

本コースの修了認定は，各履修者の所属学部の学部教授会が行います。
本コースに関わる事務は，教務課と関係学部事務室が協力して行います。

８ 副専攻コース履修希望者の受入上限数

各入学年次生について１０名を上限とします。
２年次の年度初めの履修登録期間における履修希望者が上記の定員を超えた場合には，前年度までの累計ＧＰＡ値が高い者を優先します。なお，定員に空きが生じている場合には，２年次後期以降の履修登録期間にも履修者の募集を行います。

９ 副専攻コースの既修得単位等の認定単位数等

履修申請時に別添の本コースの授業科目配当表に記載されている科目の単位を既に修得している場合，副専攻履修申請書（様式第２号）の裏面の表に必要事項を記入すれば，それらの科目の単位は本コースの修了要件単位に算入されます。

学術的副専攻(海洋生物学コース)授業科目配当表

科目区分	講義コード 授業科目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
				前	後	前	後	前	後	前	後	
生命工学部 海洋生物科学科 専門教育科目	LM6MCS1100 魚学概論	○	2	●								
	LM6MCS1150 海洋生態学		2		●							
	LM6MCS1200 海洋動物分類学		2		●							
	LM6MCS1250 海洋植物分類学		2		●							
	LM6MCS2150 海洋動物発生学		2				●					
	LM6MCS2700 海洋哺乳類学		2				●					
	LM6MCS2500 魚類の行動と生理	○	2				●					
	LM6FIE3100 沿岸域の環境と生物		2					●				
	LM6FIE3250 海洋動物の行動と生態	○	2					●				
	LM6AQS3100 観賞魚の飼育と繁殖		2					●				
	LM6AQS3150 水生観賞生物の分類と飼育		2					●				
	LM6RUD3250 水産資源の生態	○	2						●			
	LM6FIE3300 生物多様性とその保全		2						●			
	LM6AQS3350 水生生物の生態と環境	○	2						●			

様式第１号

令和 ７年 ４月 １日現在

副 専 攻 コ ー ス 説 明 書

開設学部名（薬学部）

副専攻の種別とコースの名称	学術的副専攻　薬学コース

１ 副専攻コースの紹介と概要

経済学部において医薬情報担当者（ＭＲ）を，生命工学部 健康栄養科学科において管理栄養士を目指しているなど，薬学部以外の学部・学科に所属していて，将来医療や医薬品に関連する仕事に従事することを志している学生を対象として薬学コースを開講します。本コースでは，薬の基本的性質や作用メカニズムの知識，さらに医薬品販売に関する知識などを修得することができます。

２ 副専攻コースの開始時期と副専攻コース選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）

本コースは，薬学の基礎知識を学ぶための１年次配当科目から開始して，薬学の専門知識を深める２年次配当科目，薬物治療について学ぶ３，４年次配当科目と学年進行に伴い順次履修することを原則とします。

本コースの履修申請は，２年次前期以降の履修登録期間に行うことができます。ただし，下の８の欄に記載しているように，履修希望者の受入上限人数を設定していますので，皆さんの希望にそえない可能性もあります。詳しくは８の欄を見てください。

本コースの履修に関して，既修得要件は特にありません。

３ 副専攻コースの履修について

（１） 副専攻コースの到達目標

到達目標として，本コースの授業科目の履修を通じて，次の３つの薬学に関連した知識の修得が挙げられます。このことで，薬を物質的側面から考え，その生体内での作用メカニズムの理解が深まり，さらには新薬の開発に関する考え方も身に付けることができるようになることを目指します。

・薬についての基本的な化学的及び物理的性質に関する知識の修得

・薬の作用メカニズムに関する基本的な知識の修得

・新規医薬品の開発に関する知識の修得

（２） 副専攻コースを履修する上での注意点

１　薬学部１年次配当科目から高学年次配当科目へ，順次履修していくことを原則とします。専門基礎科目（導入教育科目）の３科目はすべて履修してください。ただし， 分析化学Ⅰ，基礎化学，機能形態学Ⅰは，それぞれ主専攻学部・学科で開講されている無機化学，有機化学，生物学に関連した科目からの読み替えが可能です。

２　本コースは，薬学部以外の学部・学科所属の学生が履修できます。ただし，履修申請を行う時点までの累計ＧＰＡ値が３．０以上であることが条件となります。

３　所属学科の授業時間割との関係で，登録した副専攻コースの授業科目の履修が制限される場合があります。

４ 教育内容

本コースは，専門基礎科目に加えて，専門科目として，物理・分析系，化学系，生物系，衛生・法制度系，並びに医療薬学系の科目群から構成されています。３欄の（２）に記載しているように，専門基礎科目は３科目６単位が必修であり，これらを修めることで２年次以降の薬学専門科目の理解が深まります。専門科目については，５つある系からそれぞれ選択必修科目を１科目以上修得する必要があり，修了要件として専門基礎科目及び専門科目を併せて２０単位修得するように定めています。これらの学修により，薬学で必要となる基本知識を体系的に学ぶことができ，実社会で役立つ薬学に関連した資質を伸ばすことができます。

５ 科目及び授業内容

本コースの授業科目については別添の授業科目配当表を参照してください。
各科目の内容については，各年度に公開される当該科目のシラバスを参照してください。

６ 評 価

（１） 試験・成績評価

講義科目では原則として定期試験を行いますが，毎回実施する小テストの点数等から総合的に成績評価を行う科目もあります。各科目の成績評価の方法は当該科目のシラバスに記載しています。

（２） 修了要件

本コースの授業科目から，必修科目３科目６単位（◯），並びに専門科目各系についてそれぞれ選択必修科目（△）１科目以上の単位を含む，計２０単位以上を修得した者に，卒業時に副専攻（薬学コース）の修了証書を授与します。

７ 副専攻コースの責任体制

本コースの修了認定は，薬学部の学部教授会が行います。
本コースに関わる事務は，教務課と薬学部事務室が協力して行います。

８ 副専攻コース履修希望者の受入上限数

各入学年次生について１０名を上限とします。
２年次の年度初めの履修登録期間における履修希望者が上記の定員を超えた場合には，前年度までの累計ＧＰＡ値が高い者を優先します。なお，定員に空きが生じている場合には，２年次後期以降の履修登録期間にも履修者の募集を行います。

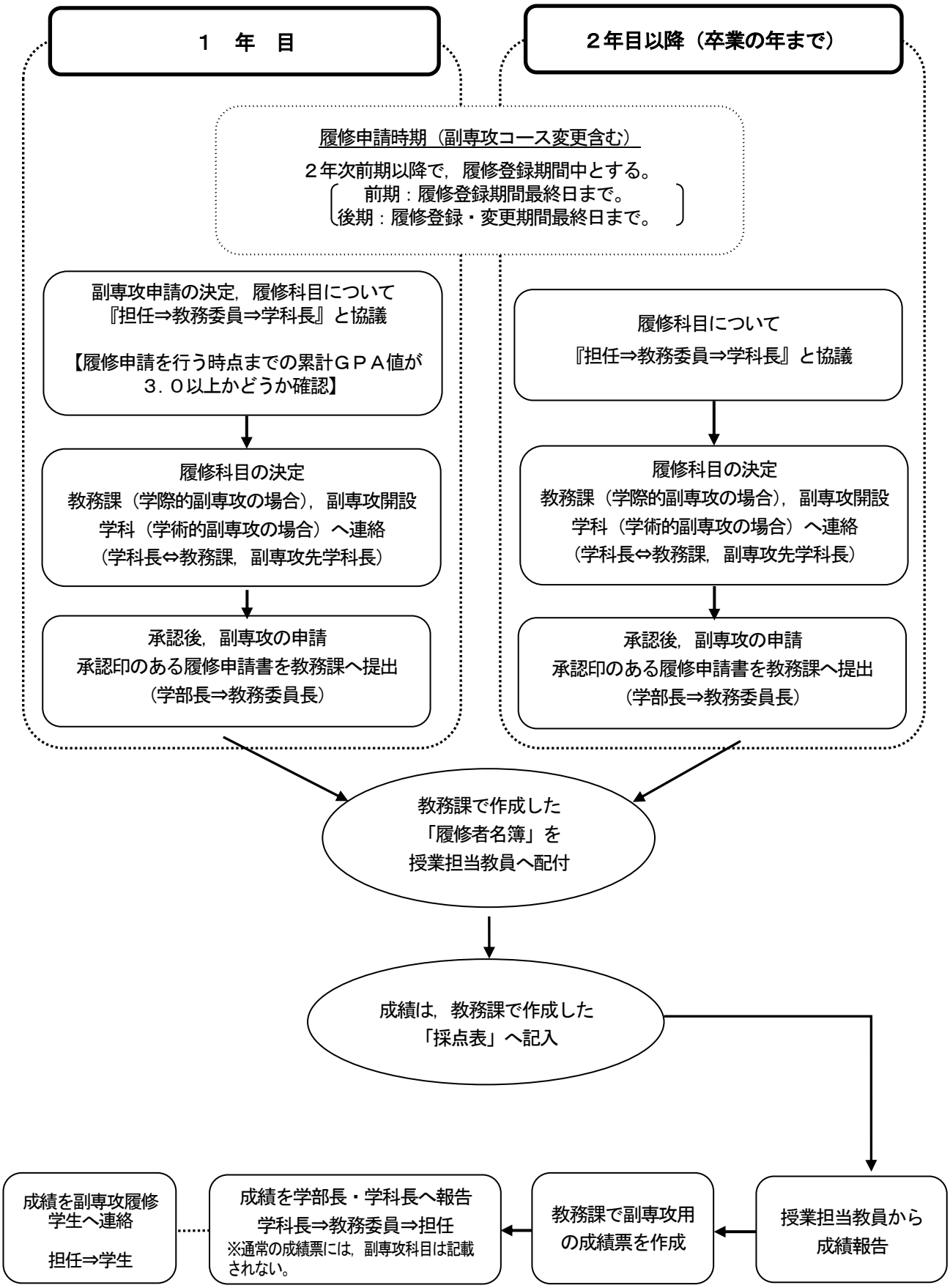
９ 副専攻コースの既修得単位等の認定単位数等

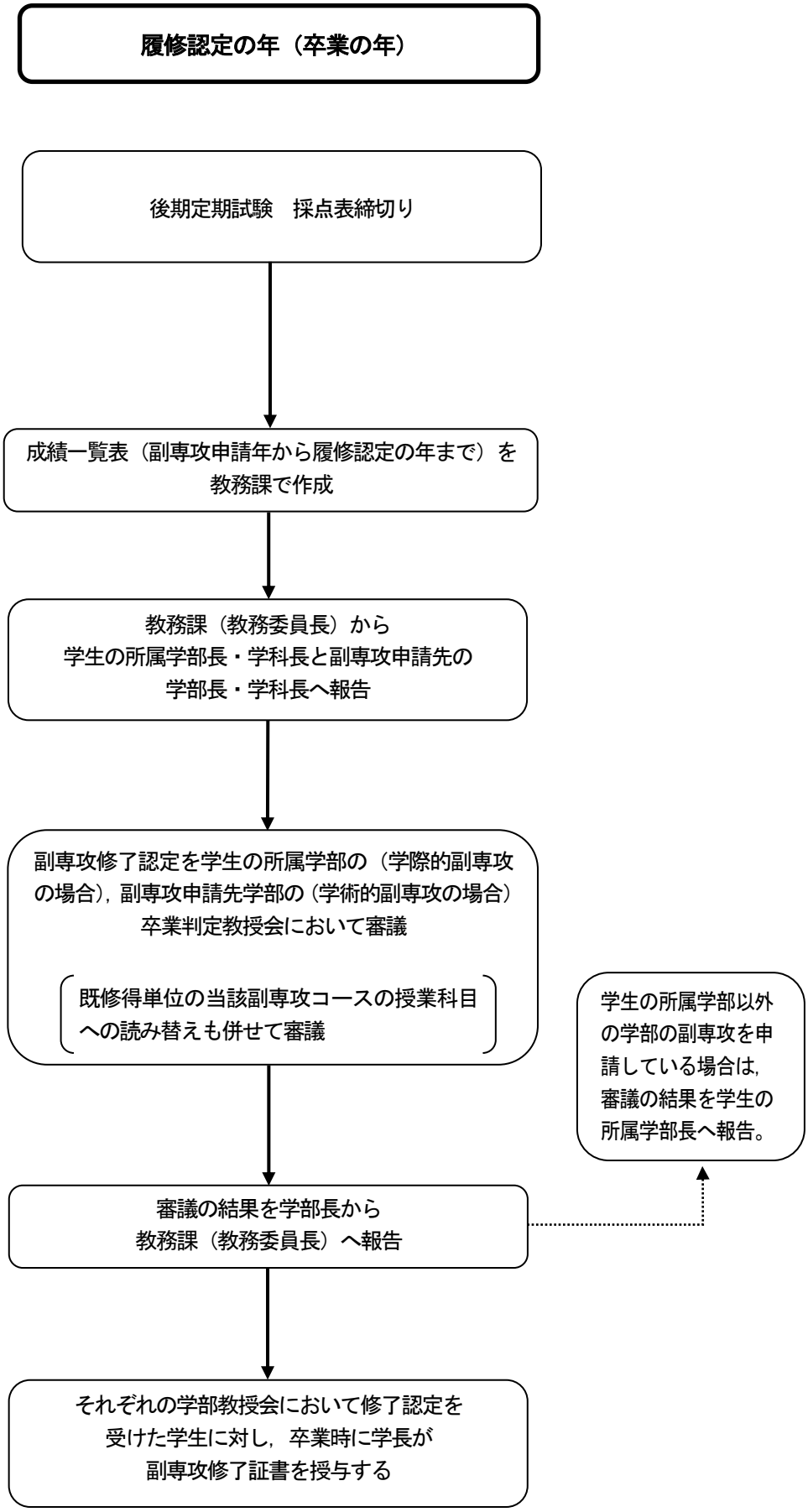
履修申請時に，別添の本コースの授業科目配当表に記載されている専門基礎科目に相当する内容の自学科科目の単位を既に修得している場合，副専攻履修申請書（様式第２号）の裏面の表に必要事項を記入すれば，それらの科目の単位は，薬学部教授会の議を経て本コースの修了要件単位に算入される場合があります。

学術的副専攻（薬学コース）授業科目配当表

科目区分			授業科目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
						前	後	前	後	前	後	前	後	
薬学部 薬学科 専門教育科目	専門基礎科目		PP5MBS1280 分析化学Ⅰ	○	2	●								導入教育科目
			PP5MBS1360 基礎化学	○	2	●								導入教育科目
			PP5MBS1440 機能形態学Ⅰ	○	2	●								導入教育科目
	専門科目	物理・分析系	PP6PHY1120 物理化学Ⅰ		1		●							この系から選択必修科目（△）１科目以上の単位修得が必要
			PP6PHY2120 物理化学Ⅱ		1			●						
			PP6PHY2270 放射薬品学	△	1				●					
			PP6PHY2320 分析化学Ⅲ	△	1				●					
		化学系	PP6CHE1120 有機化学Ⅰ		1	●								この系から選択必修科目（△）１科目以上の単位修得が必要
			PP6CHE2170 生薬学	△	2			●						
			PP6CHE2270 天然物化学Ⅰ	△	2				●					
		生物系	PP6BIO1120 機能形態学Ⅱ	△	2		●							この系から選択必修科目（△）１科目以上の単位修得が必要
			PP6BIO2160 機能形態学Ⅲ		1			●						
			PP6BIO1270 微生物学	△	2		●							
			PP6BIO1320 分子遺伝学Ⅰ		1		●							
			PP6BIO2120 生化学Ⅰ	△	2			●						
			PP6BIO2170 分子遺伝学Ⅱ	△	2			●						
		衛生・法制度系	PP6HLS3120 環境衛生学	△	2					●				この系から選択必修科目（△）１科目以上の単位修得が必要
			PP6HLS3140 食品衛生学	△	2						●			
			PP6HLS4120 公衆衛生学	△	2							●		
		医療薬学系	PP6CLP1100 漢方医学概説		1	●								この系から選択必修科目（△）１科目以上の単位修得が必要
			PP6CLP1160 漢方薬物治療学	△	2		●							
			PP6CLP2120 薬理学Ⅰ	△	2			●						
			PP6CLP2200 薬理学Ⅱ	△	2				●					
			PP6CLP2280 薬物治療学Ⅰ	△	1				●					
			PP6CLP2320 臨床検査概論	△	2				●					
			PP6CLP3200 生物薬剤学	△	2					●				
			PP6CLP3280 物理薬剤学	△	1						●			
			PP6CLP4240 医薬品情報学	△	2							●		

（参考資料）副専攻履修申請から修了までの手続きの流れ




履修認定の年（卒業の年）
後期定期試験　採点表締切り
成績一覧表（副専攻申請年から履修認定の年まで）を
教務課で作成
教務課（教務委員長）から
学生の所属学部長・学科長と副専攻申請先の
学部長・学科長へ報告
副専攻修了認定を学生の所属学部の（学際的副専攻
の場合），副専攻申請先学部の（学術的副専攻の場合）
卒業判定教授会において審議
既修得単位の当該副専攻コースの授業科目
への読み替えも併せて審議
学生の所属学部以外
の学部の副専攻を申
請している場合は，
審議の結果を学生の
所属学部長へ報告。
審議の結果を学部長から
教務課（教務委員長）へ報告
それぞれの学部教授会において修了認定を
受けた学生に対し，卒業時に学長が
副専攻修了証書を授与する

様式第２号

学 部 長	学 科 長	教務委員	担　　任

副 専 攻 履 修 申 請 書

年　　月　　日

福　山　大　学　長　　殿

学部　　学科　　年

学生番号

氏　　名　　㊞

福山大学副専攻規則第５条の規定に基づき，副専攻を下記のとおり履修したいので申請いたします。

記

副専攻コース名		科目数及び 単　位　数	科目数 単位数

講義コード	副専攻科目名	担当教員名	修得単位の区分		備 考
			前･後期の別	単位数	
			前・後		
			前・後		
			前・後		
			前・後		
			前・後		
			前・後		
			前・後		
			前・後		
			前・後		
			前・後		
			前・後		

様式第２号の裏面

既修得の副専攻科目と単位数

副専攻科目名	左の科目への読替希望科目名	既修得単位等の区分			備考
		必修 選択必修	選択	年度	
単位数計 （既修得）	必修（選択必修含む）				
	選択				

様式第３号

学 部 長	学 科 長	教務委員	担　　任

副 専 攻 コ ー ス 変 更 届

年　　月　　日

福　山　大　学　長　　殿

学部　　学科　　年

学生番号

氏　　名　　㊞

福山大学副専攻規則第７条の規定に基づき，副専攻コースを下記のとおり変更したいので，お届けいたします。

記

変　　更　　後	変　　更　　前		備　考
副専攻コース名	副専攻コース名	既修得単位数	
		科目 単位	

１　変更の理由

２　その他

様式第４号

学 部 長	学 科 長	教務委員	担　　任

副 専 攻 履 修 辞 退 届

年　　月　　日

福　山　大　学　長　　殿

学部　　学科　　年

学生番号

氏　　名　　㊞

福山大学副専攻規則第８条の規定に基づき，副専攻履修について下記のとおり辞退したいので，お届けいたします。

記

副専攻コース名		既修得科目	科　目
		既修得単位数	単　位

１　辞退の理由

２　その他

様式第５号

第　　号

副 専 攻 修 了 証 書

修了年月日　　年　月　日

証 書 番 号　　第　　号

氏　　名

生 年 月 日　　年　月　日

あなたは　本学の○○的副専攻（○○コース）所定の課程を修了したので修了証書を授与します

年　月　日

福　山　大　学

学　長

様式第６号

福 山 大 学 副 専 攻 履 修 証 明 書

福山大学

学部　　学科

年次生

上記の学生は　本学が開設している下記の副専攻コースを履修中であることを証明します

副専攻コース名

「　　コース」

年　　月　　日

福山大学　教務委員長　　㊞